

指導と評価の計画

学校名	〇〇〇〇高等学校	授業者	〇〇 〇〇
教科・科目	公民(公共)	使用教科書等	高等学校新公共(第一学習社)
学年	第1学年	クラス(人数)	〇〇組(〇〇人)
内容のまとめり	大項目B 自立した主体としてより良い社会の形成に参画する私たち 中項目(3) 主として経済に関わる事項		
単元名	経済的な主体となる私たち		

【生徒観】

当クラスは、授業に対して好奇心を持って前向きに取り組む生徒が多く、仲間の考えや発言に耳を傾けることができるため、ためらうことなく自己発信を行い、安心して授業を受けることができるクラスである。グループワークやペアワークではお互いの意見を活発に交わし合う姿が見られ、クラス全体で授業を作り上げていく雰囲気がある。学力差は小さいが社会科目の基礎知識や生活経験に基づく一般的な知識の有無には幅がある。それに対応するために、授業の中では主にペアワークを行い、学習者同士が教え合うことで、授業の前提となる知識の差を減らしてきた。入学当初よりタブレットでの調べ学習や、MetaMoJiの利用、Microsoft Formsでの課題やレポートの提出を課してきたため、ICT機器の活用については授業内外において問題なく行うことができる。

【教材観】

本単元では、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などの日本経済に関わる諸問題について取り扱う。これらに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること、活発な経済活動と個人の尊重をとともに成り立たせることが必要であることを理解させる。特に研究授業では①レイ・カールワイツの「収穫加速の法則」を援用した表から、生命の誕生～インターネットの普及(2005年)までの間の主要なトピックを抽出し、大きな変化が起こるまでのスパンが指数関数的に短くなっていることをペアワークで読み解く。②2005年以降の大きな変化(スマートフォンの普及やAIの登場)を手掛かりに、今後の社会で起こりうる変化について自由に構想する。③機械化による職業への影響を分析した研究(2013年)と、AIの普及による職業への影響を分析した研究(2023年)を比較することで、技術の進展により人間に求められる力自体が、時代とともに変化することをイメージづける。①②を通して、予測不可能な変化が生きているうちに複数回起こりうるということに気づき、これらの前提をもとに今後の社会を生きる上で求められる力とその学び方について考察する。

【指導観】

本単元では様々な資料の読み解きや経済事象のシミュレーションなどを通して、経済が自分に直接関係のある身近なものであるということを強く意識付けたい。また一人のプレーヤーとして経済に積極的に関与する姿勢と、適切に判断をする力を身につけさせる。特に今回の授業では社会の変化を自分の身に迫った問題と捉え、これからの高校での学びのあり方をより望ましいものに変容させる契機としたい。内発的動機づけによる学習態度の向上が高校一年次に見られることで、地歴公民科の学習のみならず、高校での学び全般がより活発で充実した意義深いものとなるようにしたい。

本指導計画では、中項目を単元として以下のように設定している。

- 中項目(1) 法的な主体となる私たち……………小単元1
- 中項目(2) 政治的な主体となる私たち……………小単元2
- 中項目(3) 経済的な主体となる私たち……………小単元3(本単元)

1 単元の目標

- ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現実社会の経済活動に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間として社会に積極的に関わり、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	・現実社会の経済事象や課題に着目し、主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3 単元における指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1次(3時間)	単元を貫く問い 公正で自由な経済活動のためには、何が必要なのだろうか。				
	課題 社会の変化が加速する中、私たちはこれからの働き方をどう描き、行動すべきだろうか。				
	第1次① 雇用と労働問題(1時間) ・経済と自分はどのように結びついているのだろうか？	●			●公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担って

	第1次② 社会の変化と職業観(1時間)【本時】 ・社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身に付けることが大切だろう？ 第1次③ 日本の産業と企業(1時間) ・日本の産業や企業に求められるものは何だろう？	●	○	いること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ○現実の経済事象や課題に着目し、主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ○他者からのフィードバックを誠実に受けとめ、自己の文章をより良いものへと改善しようとしている。 ●現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を読み取り、まとめる技能を身に付けている。
第2次(6時間)	課題 市場経済や金融の機能を活かしつつ、社会を持続させるために、政府はどのような役割を担うべきだろうか。 第2次① 市場経済の機能と限界(2時間) ・ものの値段はどのように決まり、どのように変わるのだろうか？ ・人々は経済発展を続けていくべきか？ ・豊かさとは何だろうか？ 第2次② 金融のはたらき(2時間) ・経済のプレーヤーとして社会に参加しよう。 第2次③ 財政の役割と社会保障(2時間) ・払った税金は何に変わるのだろうか？ ・社会保障はどうあるべきなのだろうか？	●	●	●需給曲線がどのように変化し、それにより市場価格がどう決まるのかを正しくシミュレーションし、その過程を適切に表現している。 ●グリーン成長や循環型経済の事例を通して、経済成長と環境保全が両立できるかどうか考察している。 ●リスクとリターンがトレードオフの関係にあることを理解しながら、どの金融商品をどのこのタイミングで利用するのかのプランを適切に説明している。 ●増税について理解を得ることの難しさを考え、公共サービスの在り方について多面的・多角的に考察し適切に表現している。 ●少子高齢化などにより制度の持続可能性が危機に瀕していることを理解している。
第3次(3時間)	課題 経済がグローバル化するなかで、国際社会や私たちはどうあるべきだろうか。 第3次① 国際経済と地域統合(1時間) ・世界の経済と私はどのように関わっているのだろうか？ ・世界と経済的につながることは良いことなのだろうか？	●	●	●国際的な分業が資源の効率的な利用をもたらす一方で、保護貿易によって自国の経済を保護する主張がなされていることを理解している。 ●グローバル化にはメリット・デメリットの両面があることを、資料から適切に読み取っている。

	第3次② 地球規模の諸課題(2時間)				
	・地球の問題を解決するために今どのようなことが必要なのだろう？		● ○		●○現実社会の経済事象や課題に着目し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

4 本時の展開(1時間分)			
本時の目標		社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身につけることが大切だろう？	
過程	分	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入	5	【本時の課題】社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身につけることが大切だろう？	
		数年後の自分をイメージすることを通して、職に就くということを具体的に意識する。	・自由にかつ前向きに話せる雰囲気をつくる。
展開1	17	SQ1 社会はどのように変化し、これからどうなるのだろうか？	
		・①レイ・カールワイツの「収穫加速の法則」を援用した表から、人間社会の変化のあり方について考察する。〔個→ペア〕 ・②2005 年以降の大きな変化(スマートフォンの普及や AI の登場)を手掛かりに、今後の社会で起こりうる変化について自由に構想する。〔個→ペア〕	・大きな変化が起こるまでのスパンが短くなっていることを共有する。 ・生きている間に、複数回大きな変化が起こりうることに気づかせる。
		SQ2 これからの社会で求められる力はどのようなものだろうか？	
展開2	25	・③機械化による職業への影響を分析した研究(2013年)と、AIの普及による職業への影響を分析した研究(2023 年)を比較し、技術革新や社会の変化と労働者に求められる力の変化が関連していることを考察する。〔個→ペア〕	・表の比較により技術の進展により人間に求められる力自体が、時代とともに変化することを考察させる。【思】
		・展開1での学びをもとに、今後の社会で求められると考えられる力とその学び方について考えたことを文章化し、相互評価する。 ①各自で文章を書く ②回収し、ランダムに配布する ③他の生徒の文章を評価する ④評価後の文章を元の生徒に戻す	・ルーブリックを示し、到達したい目標を設定させる。 ・匿名による相互評価とし、互いの理解促進のために適切に評価をつけるよう呼びかける。
まとめ	3	他の生徒からのフィードバックを受けて自分の文章を改善して、Microsoft Forms で提出する。	・プリントの QR コードから Microsoft Forms にて提出させる。【思】【主】

5 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善

本実践では、生徒が自らの学びを客観的に振り返り、改善に向けた意欲を高めるための仕組みとして、以下の3つを柱とした評価モデルを構築した。

【本実践の3つの柱】

○生徒による相互評価の導入

生徒を「評価と指導の主体」として再定義し、メタ認知能力を育成する。

○ルーブリックの工夫

評価の基準を「箇条書き」かつ「チェックボックス形式」にすることで、評価のプレを抑え、記述のハードルを下げる。

○「上がり幅」による態度の数値化

相互評価の結果から最終目標への向上分を数値化し、「主体的に学習に取り組む態度」を客観的に評価する。

(1)「指導と評価の一体化」の再定義

「指導と評価の一体化」は、教師のみが担うものではないと考えた。生徒自身が他者を評価し、改善に向けた助言を送るプロセスを「指導(支援)」と位置づけることで、自らの学びを客観視し、今後の学習を調整する力を養うことができる。

(2)実践の手順:WS 記入と指導のプロセス

授業の展開に合わせ、生徒の活動と教師による指導・評価を以下に時系列で整理した。

手順① 目標設定

・生徒の活動:提示されたルーブリックを確認し、自分の現状に合わせた「目標段階値(1~5)」をWSに設定する。

手順② ミニレポート作成

・生徒の活動:設定した目標段階をクリアできるよう、ルーブリックの具体的な条件を指針にミニレポートを執筆する。

手順③ 匿名による相互評価

・生徒の活動:ランダムに再配布された他者のレポートを読み、ルーブリックのチェックボックスを埋めながら到達段階を判定する。あわせて「良かった点」と「次の段階へ進むための助言」を具体的に記入する。

③ 下の表のどの段階に当てはまるのか評価し、良かった点と改善点を書き出そう

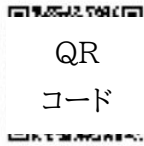
※評価表の「具体的な内容」のチェックボックスがすべて埋まればその段階がクリア

1	2	3	4	5
<良かったところ>				
<次の段階にステップアップするために必要なこと>				

右図:相互評価で評価者が記入するフィードバック(WS②)

手順④ 最終目標の再設定とレポートの提出

- ・生徒の活動：他者からの評価を踏まえ、レポートを修正した上で「最終的にどの段階を目指すか」という数値を Microsoft Forms に入力し、提出する。

④ 他の人に評価されたものを見て、新しい目標を設定しよう ⇒ 新しい目標は・・・＜ <u> </u> ＞	 QR コード
⑤ 目標を達成できるようにまとめを書き直し、forms で提出しよう	

上図：最終目標の設定と Forms への QR コード(WS②)

5. ③で他の人から評価を受けた段階 * 	6. ④で評価を受けて新たに設定した段階 * 
☐ 5	☐ 5
☐ 4	☐ 4
☐ 3	☐ 3
☐ 2	☐ 2
☐ 1	☐ 1

上図：他者評価と最終目標値の入力画面(Microsoft Forms)

- ・教師の評価：Microsoft Forms で提出されるレポートの内容に対して教師が評価する。その際も生徒が用いたルーブリックに沿って評価する。【思・判・表】
相互評価での段階値から最終目標値への変化を「上がり幅」として算出。これを「学習を改善しようとする意欲・姿勢」として評価に反映させる。【主】
＜「上がり幅」の例＞

平均的な学力の生徒

手順①の目標値が「3」→③の相互評価が「3」→④の最終目標値が「4」
＝「上がり幅」は「1」となる

学力の高い生徒

手順①の目標値が「4」→③の相互評価が「4」→④の最終目標値が「4」
＝「上がり幅」は「0」となる

(3) ルーブリックの具体設計

本実践では、作成者・評価者の双方が迷わず活用できるよう、ルーブリックの作成にあたって以下の工夫を施した。

- ・評価の基準の簡条書き化：基準を「～が書けている」といった平易な短文の簡条書きで構成した。
- ・チェックボックス形式の導入：簡条書きの各項目にチェックボックスを設置し、すべて埋まればその段階をクリアとみなす形式にした。これにより、文章作成が苦手な生徒でも評価のポイントが明確になり、前向きに改善に取り組むことが可能となった。

右図：レポートの作成・
評価に用いたルーブリッ
ク(WS①)

段階	具体的な内容
1	☐ 必要とされる力が何か考えることができていない。
2	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書けている。 ☐ 何を学ぶのかを書けてない。
3	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書けている。 ☐ 必要とされる力を身につけるためにどのようなこと学ぶのか書けている。
4	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書けている。 ☐ 必要となる力を身につけるためにどのようなこと学ぶのか書けている。 ☐ 身につけたい力とその学び方が結びついている。 (その学びをすることで、身につけたい力を身につけることができそうである)
5	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか根拠を示して書けている。 ☐ 必要となる力を身につけるため、何をどう学ぶのか具体的に書けている。 ☐ 身につけたい力と学び方が結びついていることを、誰が読んでも分かるように示せている。 (その学びをすることで、身につけたい力を身につけることができそうである)

(4)生徒の学習改善と授業への評価

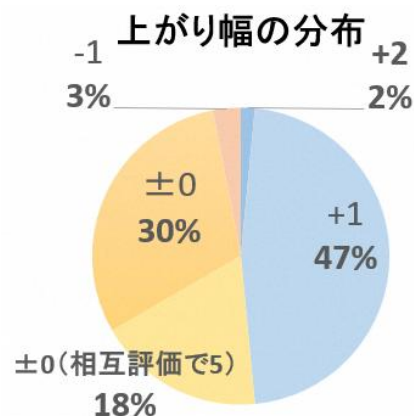
本実践における「ルーブリックによる目標設定」と「相互評価」のサイクルが、生徒の学習態度や理解度にどのような影響を与えたか、事後のアンケートデータ(66 名分)と生徒の記述から分析する。

・評価サイクルによる学習改善の可視化

生徒は授業の各段階で自らの到達目標(段階 1～5)を設定・更新した。データによると、相互評価(②)で得た客観的な評価を真摯に受け止め、最終的な提出レポート(④)に向けて目標を上方修正する傾向が見られた。このような学習改善の意欲を示した生徒は全体の約 47%(31 名)にのぼった。なお、全体の約 18%(12 名)については、相互評価の時点ですでに「5」の評価を受けているため、これ以上の数値の上昇をみることは不可能であった。(右図参照)

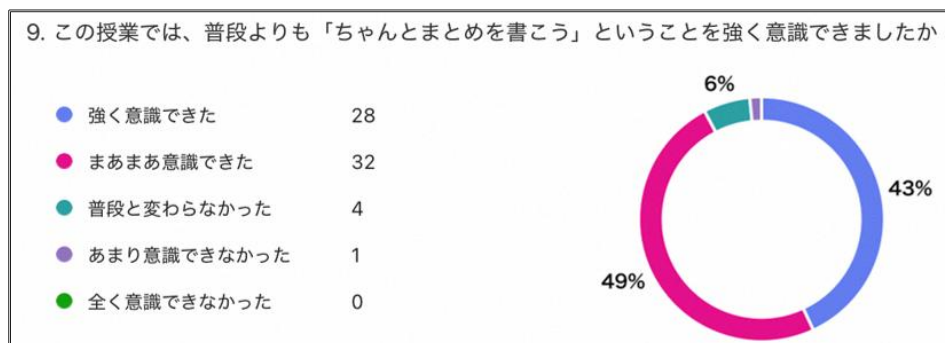
<具体的な数値変容の事例>

- ・ 上がり幅「+1」: 30 名(46.9%)
 - 例:相互評価「3」に対し、最終目標を「4」に設定
 - 例:相互評価「4」に対し、最終目標を「5」に設定
- ・ 上がり幅「+2」: 1 名(1.6%)
 - 例:相互評価「3」に対し、最終目標を「5」に設定



・相互評価がもたらす「書く意識」の向上

「他の生徒に読まれ、評価される」という状況が、普段の授業以上に記述の質を意識させる要因となった。アンケートの「普段よりも『ちゃんとまとめを書こう』と意識できたか」という問いに対し、多くの生徒が「強く意識できた」と回答している。(下図参照、Microsoft Forms 集計)



<生徒の文言(書く意識の向上)>

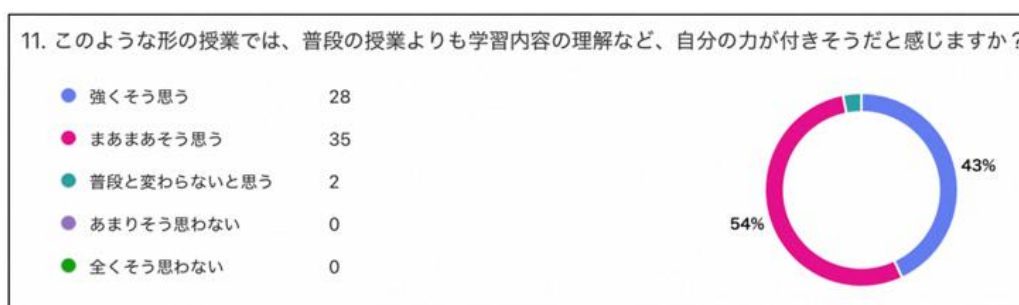
「自分だけではなくクラスの誰かが見ると思ったらちゃんと書こうと意識することが出来た。」

「誰かに読んでもらうと分かっていたら、よりわかりやすい文章を考えようと思える。」

「あまり先生以外に自分が書いたまとめを評価されることがないから、誰が見てもわかりやすくできるだけ細かく書けるようにしようと思えた。」

・学習内容の理解深化に対する手応え

学習内容の理解についても本実践の手法について、「自分の力になりそうだ」と感じた生徒が非常に多かった。
(下図参照、Microsoft Forms 集計)



学習に対する自己効力感を上げることは、学習の質を向上させ学習内容の理解を深めることに直結するため非常に重要なポイントであると考え。生徒が理解の深化を感じた理由として「他者からの評価を意識したミニレポートを2回書く」「他者のレポートを評価する」という活動が、深い理解に繋がっていることが、生徒の文言から伺える。

<生徒の文言(理解の深化)>

「自分で習ったことをまとめることによって、単語や内容の理解を深めることができるから。」

「自分の言葉にすることで頭に入ってくるからです。」

「改善点を書いてもらえるから。自分で最後にまとめたから(力が付きそう)。」

「他人の意見を参考にできるし、自分では気づけない良い点や直す点がわかって、より学習内容を理解できると感じた。」

・授業形式への肯定的評価

この授業の手法に対し、生徒は「新鮮さ」や「楽しさ」を感じつつ、それが自身の「まとめる力」の向上に結びついていると評価している。

<生徒の文言(授業評価)>

「自分の改善点がわかって新鮮だったから。」

「目標があるから取り組みやすかったです。」

「評価項目がはっきりしてて文章が書きやすかった。」

「自分以外の人がどんな感じでまとめているか見れたし、自分の改善点も知れたから。」

以上のデータと記述から、本実践の手法は生徒に「目標達成への意欲」と「客観的な視点」を与え、「指導と評価の一体化」を生徒自身が実感できるレベルで具現化していると言える。特にルーブリックの活用により、文章作成が苦手

な生徒も「何をどう書けばよいか」が明確になり、前向きに学習改善に取り組む姿が見られた。

6 成果と今後の課題

(1) 成果

・「指導と評価の一体化」の具現化

相互評価を「他者への支援(指導)」と再定義することで、生徒が評価規準(ルーブリック)を深く理解し、自らの学びを客観視するメタ認知的な学習が見られた。

・評価の公平性と個に応じた評価

「目標値との差分(上がり幅)」を指標とすることで、従来の学力層に関わらず、全ての生徒が「学習を改善しようとする態度」において正当に評価される仕組みを構築することができた。

・ICTの活用による学習改善の可視化

Microsoft Forms の活用により、生徒一人ひとりの試行錯誤や意欲の変容が数値として可視化され、教師による見守りと支援が可能となった。

(2) 課題

・「評価の操作」への対策

上がり幅を意識するあまり、初期の目標段階値を意図的に低く設定するといった「評価のための調整」を防ぐことが必要である。これに対し、主体的に学習に臨む態度の評価プロセスの検討(段階値設定の理由を記述させるなど)が必要である。

・上位層のモチベーション維持

すでに高い到達段階にいる生徒に対し、上がり幅以外の側面(内容の深化や他者貢献度)をどう評価に反映させるか、評価指標のさらなる多層化が求められる。

・相互評価の精度向上

生徒間の評価スキルの差を埋めるため、ルーブリックの継続的なブラッシュアップと、評価規準をクラス全体ですり合わせる機会の確保が不可欠である。

技術革新とわたし

テーマ

社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身に付けることが大切だろうか？

B4 横で配布

I. 激動の社会

進化の内容	進化に要した期間	
生命誕生	24億年	ホモ・サピエンスの登場
真核細胞・多細胞生物の誕生	7億5,000万年	絵画・初期の都市の登場
カンフリア紀における身体設計の多様化	2億2,000万年	農業
爬虫類の登場	1億3,500万年	文字・車輪の利用
哺乳類の登場	1億1,350万年	都市国家の設立
霊長類の登場	4,900万年	印刷技術・実験的手法の確立
ヒト科	3,100万年	産業革命
ヒト科の先祖が二足歩行	210万年	電気・電話・ラジオ
特化された石器の使用	80万年	コンピュータ
話し言葉の使用	70万年	パーソナル・コンピュータ インターネットの普及

☆上の表から気づくことは？

<自分の意見>

<仲間の意見>

⇒私たちが住むこれからの社会は

社会である。

II. 技術革新による労働への影響

○下の表は様々な職種がAIやロボットによる影響をどれほど受けるかという研究の結果である。
(「雇用の未来」2013年)

機械化の影響を受けにくい職業	機械化の影響を受けやすい職業
修理などの現場監督者 職業訓練士 義肢装具士 消防、防災の現場監督者 宿泊施設の支配人 警察官の現場指揮者 心理士	危機管理責任者 作業療法士 医者 栄養士 心理学者 小学校教師 メンタルカウンセラー
	不動産の審査 税金申告代行 銀行の口座開設担当者 時計の組立、調整工 証券会社の一般事務員 自動車保険鑑定人 銀行窓口
	手縫いの仕立て屋 時計修理工 フイルム写真処理 データ入力作業員 保険金請求、契約代行 ローンの融資担当者 スポーツの審判 荷物の発送・受け取り係
<特徴>	<特徴>

○下は様々な職種が生成 AI やその活用による影響をどれほど受けるかという研究の結果である。
(「GPTs are GPTs」2023年)

AIの影響を受けにくい仕事	AIの影響を受けやすい仕事
農業機械操作者 車ガラス取り付け修理工 トリマー パティンター 電力線の設置工と修理工 大工 肉、鶏肉、魚の切断者 機械操縦者	アスリート バスとトラップの技師 料理人 食器洗い 掘削作業者 屋根職人 パイロメカニック 金属加工
	通訳・翻訳家 動物科学者 数学者 金融分析者 ニュースアナリスト 法務秘書 臨床データマネージャー 金融マネージャー 校正者
	詩人、作詞家、 広報スペシャリスト 税理士 会計士 記者・ジャーナリスト 公認会計士 グラフィックデザイナー 撮影確定人 気候変動分析者

<特徴><特徴>

二つの研究結果を比較してわかること

IV. まとめ

MQ 社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身に付けることが大切だろうか？

☆MQについて本日の授業で学んだことをもとに文章にしてまとめよう

① 以下の<ルーブリック評価表>から、自分の目標とする段階の数字に○をつけよう

段階	具体的な内容
1	☐ 必要とされる力が何か考えることができていない。 ☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書いている。 ☐ 何を学ぶのか書けてない。
2	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書いている。 ☐ 必要とされる力を身につけるためにどのようなこと学ぶのか書けている。
3	☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか書けている。 ☐ 必要となる力を身につけるためにどのようなこと学ぶのか書けている。 ☐ 身につけたい力とその学び方が結びついていない。
4	(その学びをすることで、身につけたい力を身につけることができそうである) ☐ これからの社会で必要となる力がどのようなものか概観を示して書けている。 ☐ 必要となる力を身につけるため、何をどう学ぶのか具体的に書けている。 ☐ 身につけたい力と学び方が結びついていないことを、誰か読んで分かるように示せている。
5	(その学びをすることで、身につけたい力を身につけることができそうである)

←シークレットナンバー

1 年 科 番 氏 名

技術革新と労働ーワークシートー

B5 縦で配布

MQ 社会で生きるために、どのように学び、どのような力を身に付けることが大切だろう？

② 目標にした段階を達成できるように今日のまとめを書こう

----- 交換 -----

③ 下の表のどの段階に当てはまるのか評価し、良かった点と改善点を書き出そう
※評価表の「具体的な内容」のチェックボックスがすべて埋まればその段階がクリア

1	2	3	4	5
<良かったところ>				
<次の段階にステップアップするために必要なこと>				

----- 交換 -----

- ④ 他の人に評価されたものを見て、新しい目標を設定しよう
⇒ 新しい目標は・・・< _____ >
- ⑤ 目標を達成できるようにまとめを書き直し、formsで提出しよう



二次元
コード